

HOMAS 日本語版 ニュースレター

Hokkaido Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会

No. 62

平成23年(2011年)3月15日発行
北海道・マサチューセッツ協会
会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目
道庁別館12階
TEL011-231-3392 FAX011-231-3666
発行人 中垣 正史
E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち

寒地稲作の祖～夢を追い続けた中山久蔵の生涯と業績

耐寒品種「赤毛」栽培の成功から…今日の「きらら」「ゆめぴりか」誕生への道一

まえがき

「豊葦原の瑞穂の国」(古事記)といわれる美しい稲穂が実る日本の「稲作」の歴史は古く、縄文時代の終りから弥生時代の初めにかけて、紀元前5世紀ごろ中国から伝来したといわれます。次第に本州北端まで到達し、そして日本の社会全体が稲作とともに歩み、「米」を主食とする食文化や風俗を培ってきました。米は、日本では主食として食べられる他に、酒や餅、味噌、醤油などの原料としても用いられてきました。

近世の日本では、太閤検地以後江戸時代を通じて、各藩の米の生産量(他の農産物・海産物も米の生産量に換算)で表す「石高制」を用いています。加賀百万石(120万石)とか薩摩七十二万石(90万石)・伊達六十二万石など…また、大名をはじめとする武士の収入(禄高)を表す場合も石高を用い、これは、明治時代の地租改正まで続いています。しかし、蝦夷地は江戸時代には米の収穫はなく、松前藩は唯一「無高」の藩といわれました。そのため一万石以上を大名とする制度の例外として、特別に一万石格を与えられて諸侯に列しています。

この寒冷の蝦夷地の稲作は、道南各地で試作されていますが、渡島大野地方(現北斗市大野町)で、寛文年間(1661～1672)次いで貞享2年(1685)試作され、さらに元禄5年(1692)、野田作右衛門という人が、四百五十坪を開墾して稲作を試み米十俵を収穫したといわれます。これが北海道の稲作の起源として、大野町に残る「北海道水田発祥の地碑」に刻されています。<5頁 [資料]参照>

しかし、まだ定着はしなかったようです。寛政11年(1799)以降、幕府の蝦夷地直轄時代に、幕府の積極的な施策により、道南地方で次第に稲作が定着していったようです。

明治政府の開拓使設置(1869年<明治2年>7月)以後、札幌を中心として北海道の近代化が推進されていきます。初代判官島義勇(1822 - 1874)、第2代判官岩村通俊(1840 - 1915)の先見の明、続く黒田清隆(1840 - 1900)開拓使次官(のち長官)の指導力と、黒田の招きによる多くの米国の先進技術・教育の専門家たち、開拓使顧問のホーレス・ケプロン(1804 - 1885)、鉦山・地質測量のベンジャミン・S・ライマン(1835 - 1920)、農業牧畜のエドウィン・ダン(1858 - 1931)、高等教育のウィリアム・S・クラーク(1826 - 1886)、ウィリアム・ホイラー(1851 - 1932)、デヴィッド・P・ベンハロー(1854 - 1910)…などのすぐれた指導力により、各分野の開拓事業が進められたのでした。札幌農学校も、クラーク博士一行を迎えて1876年(明治9年)8月14日に開校します。

この時代に、開拓使顧問ホールズ・ケブロンが指示したのは、寒冷地に稲作は不向きであり、アメリカ式の牧畜と畑作中心の混合農業の推進でした。

当初、開拓使はこの意見に従い、畑作・酪農中心の欧化政策を推進しますが、農家の米作りへの執着心は強く、各地で多くの寒地稲作の試作の努力がなされていきました。石狩地方では、古くは琴似の早山清太郎、篠路の森山兼光などの水稲試作があります。そのなかで苦労を重ねて、北海道での本格的な米作りの成功とその普及に大きく貢献した先駆者、「寒地稲作の祖」と称される中山久蔵(1828 - 1919)の功績はきわめて大きいものです。今回、ここにその生涯と業績をたどってみたいと思います。

中山(松村)久蔵の生い立ち

中山(松村)久蔵(1828 - 1919)は、1828年(文政11年)3月21日、河内国石川郡春日村(現、大阪府南河内郡太子町春日)の農業を営む旧家松村三右衛門の次男として生まれています。幼少時より青雲の志強く、1845年(弘化2年)4月、17歳の時、父兄の許諾なしに故郷を飛び出して江戸に行ったようです。その後大阪と江戸の間を諸国放浪、1853年(嘉永6年)、25歳の時、仙台藩土片倉英馬の知遇を得て仕官します。

この時期、蝦夷地のロシアに対する防備は松前藩だけではなく、東北諸藩が分担させられています。仙台藩は、白老から襟裳岬を経て十勝・厚岸・根室、さらに国後・択捉までを割り当てられています。その拠点となったのが白老陣屋(要塞)でした。久蔵も片倉に従って1856年(安政三年)の陣屋設置以後明治維新までの12年間、この白老陣屋と仙台間を何度か往復していたようです。白老在勤は1年交替でした。久蔵は、白老では、漁に出たり、開墾・農作物の栽培などもしていたと思われます。

明治維新後、久蔵はしばらく静岡に滞在したようですが、42歳の厄年を機に、主家を辞して北海道移住を決意し、1869年(明治2年)12月、白老に渡りました。人づてに苫小牧に移り、土佐藩出身の平三郎を養子に迎えて開墾に着手します。しかし、苫小牧の火山灰の土壌が農地開墾に向かないと判断して、1871年(明治4年)単身島松に入植します。苫小牧からの途中、数株の山ユリを掘ってきて、島松に植えたのが翌年以降増え続けて数十万株にもなったそうで、久蔵はこの山ユリや雑穀栽培を自分の農業の第一歩として、島松で六千坪を開墾しています。この時期、姓を松村から中山に改めています。これは、黒田長官の助言を受けて、島松の山林の中で、ただ一人開墾に立ち向かう決意をこめて中山姓にしたといわれます。この久蔵の驚異的な働きは評判となり、1872年(明治5年)松本十郎判官が島松に立ち寄り、当時開拓者に与えられていた一人分の扶助を進めますが、自力で開墾したいとして、久蔵はこれを辞退しています。堅忍不拔、自助自立の精神、これが久蔵の強い信念でした。松本十郎判官は、その後もたびたび立ち寄っています。

1873年(明治6年)には、札幌～室蘭間の「札幌本道」が開通しています。この札幌本道開設のために、久蔵は自分の畑地800坪を寄付したようです。

また、久蔵は、後になって、1896年(明治29年)、第7師団独立歩兵第1大隊(後の歩兵二十五連隊)の創設にあたり島松演習場として、百万坪の土地も無償で寄付したといわれます。

耐寒品種「赤毛」の栽培

久蔵は粗末な小屋に住み、寒さと飢えと孤独に耐えながら、寒地稲作に取り組む決意をます。入植3年目の1873年(明治6年)に、久蔵は渡島大野へ出かけて、寒さに強いという「赤毛」と「白髭」種の種籾を持ち帰って一反歩の水田耕作を試みます。しかし、5月に蒔いた籾がなかなか発芽せず、風呂の湯を沸かして昼夜苗代に流し入れて発芽させ、その後も島松川の水を「暖水路」を通して温めて水田に引くという粘り強い苦労の末、この秋始めて「赤毛」種で一反の水田から二石三斗の

収穫を得たといわれます。これが北海道の米作りの夜明けとなりました。その後、久蔵が苦勞を重ねて育てた「赤毛」種の種籾は、空知や上川の農家に無償で配布され、ここから全道に米作りが広がったのです。石狩平野の人々は、この品種を「赤毛」とは呼ばず、「中山種」と呼んで、久蔵の功績を称えたそうです。これがきっかけとなって、石狩平野の農家江藤庄三郎の「坊主」の発見、その小作人中田光治の努力により美唄一帯に作られるようになり、さらに上川盆地にまで広がり、「坊主2号」「坊主6号」などの優れた耐寒品種が生み出されていきます。1877年(明治10年)、久蔵はこの寒地稲作の成功を示すために、東京で開かれた第1回内国勸業博覧会に自ら作った米を出品し、内務卿大久保利通の表彰を受けています。1879年(明治12年)には、開拓使に米一石(150kg)を献上するまでの収穫を上げるようになり、開拓使長官黒田清隆もこれまでの功績を称えて、1882年(明治15年)には、農商務卿西郷従道からも表彰されることとなります。1889年(明治19年)、新しく設置された北海道庁の民間指導員になっています。久蔵は、収穫した種籾を開拓者に無償で配り、農村を訪ね歩いて稲作の指導にもあたったといわれます。

1892年(明治25年)、久蔵は養子の留蔵を広島村大曲に入地させて水田の経営をさせています。また、広島村下仁井別の草分けといわれる谷喜三郎は、久蔵の指導を受けて水稻作りにあたり、この地区の開拓に貢献しています。久蔵の水稻栽培に対する研究心は強く、1873年(明治6年)から1901年(明治34年)までの気候・発育・反収などの克明な記録も残しています。

1903年(明治36年)には、明治天皇から緑綬褒章を受章しています。1910年(明治43年)以降、農業試験場での品種改良が行われ「富国」「石狩白毛」「新雪」などを生み出し稲作安定に寄与したといわれます。その後、一度に多くの籾まきが可能な「たこ足」という籾の直蒔機の使用・油紙を張った「温床苗代」などの技術的な面と品種改良の努力と工夫の末、広大な湿地帯や原野が豊かな水田へと変わっていきます。こうして、今日石狩平野を主産地とする北海道稲作は全国一の収穫量を誇る地域に発展していきます。

島松駅通

1877年(明治10年)4月16日、札幌農学校教頭ウィリアム・S・クラーク博士(1826-1886)が、在任約8ヶ月で札幌を去るにあたり、多くの学生や職員に送られて、この中山久蔵宅(駅通)で食事の後、「Boys be ambitious-少年よ大志を抱け」の言葉を残して、別れを告げて帰国の途についたというのは、有名な話です。< [資料]クラーク博士記念碑(昭和25年11月建立)の写真参照 >

1881年(明治14年)9月、東北・北海道ご巡幸中の明治天皇は、この中山久蔵宅(駅通)を御昼行在所として休憩されお食事をされています。54歳の久蔵が、7年間にわたって品種改良を重ねた「赤毛」の稲穂などをお見せしたのに対して、明治天皇から、労いのお言葉と金300円・御紋付き三つ組み銀杯を賜っています。中山久蔵が、正式に駅通取扱を命ぜられたのは、1884年(明治17年)8月16日からです。1ヵ年百三十円給付されて、1897年(明治30年)に廃止されるまで、駅通所の経営に当たっていたようです。< 現在、「旧島松駅通所」は、国指定史跡として一般公開されています。 >

開拓への貢献

その後、久蔵は、地元の有力者となり、道路工事を監督したり、学校を建てるなど、公共事業にも力を尽くしたといわれます。また、久蔵は、早くから葡萄などの果樹栽培も始めており、1878年(明治11年)からの蓮根(蓮)の栽培、さらに桃の栽培など、どんどん新しいことにチャレンジしています。

< この蓮は、後に北海道庁の池にも植えられたということです。 >

1882年(明治15年) 開拓使廃止、札幌・函館・根室の三県時代を経て、1886年(明治19年)北海道庁がスタートしますが、当初は庁内に米食禁止令が出され、稲作を試みた農民(屯田兵)が投獄され

るということさえあったといわれますが、第4代北海道長官(1892 - 1896)北垣国道は、1892年(明治25年)、東京農科大学教授西宮常明を北海道財務長官として迎えて、翌年から「稲作試験場」を上白石・真駒内に開設して、寒地稲作の推進を決めています。この稲作奨励策は、これまで他県に頼ってきた北海道の食料(米)自給率を高めることが急務であったのでした。これまでは、欧米式の畑作畜産を中心とした農業政策が一般的でしたが、中山久蔵の稲作の成功と道内各地への普及の実績への高い評価から各地への稲作奨励が推進されたのです。久蔵も、この後ろ盾を得て、どこへでも出かけて稲作栽培のコツを話して回り、惜しげもなく種籾を送り続けたということです。

後に、久蔵は、道庁の委嘱を受けて、北海道最初の農業普及員として、各地を回り稲作の指導に当たっています。1917年(大正6年)には、農学博士南鷹次郎を発起人として、「中山久蔵翁頌徳碑」が、島松に建てられています。

晩年

久蔵は、北海道の稲作に成功してから、郷里河内国石川郡春日村(現大阪府南河内郡太子町)の菩提寺「光福寺」に、石段・石畳やお米一石を寄進しています。

北海道開拓期に大きな役割を果たした久蔵は、その後も、農業一筋の生活を貫いて、1919年(大正8年)2月13日、島松の地で亡くなりました。91歳でした。お墓は、北広島市上仁別にあります。郷里大阪の菩提寺「光福寺」の過去帳には「耕種院亀岳鑑翁居士」の戒名が残っています。

現在、奇しくも、島松の国指定史跡、旧島松駅通所の横には、「寒地稲作この地に始まる」の中山久蔵の記念碑と「Boys be ambitious」のクラーク博士の記念碑が並んでいます。

久蔵の家族についてあまり触れていませんが、後年妻トサとの間に一子要助がいましたが、東京の大学を出てサラリーマンになります。要助の一女ヒサを養女として島松に迎えます。このヒサが婿蒸次郎を迎えて中山家を継ぎます。その後、四代目久次、五代目徹と受け継がれています。そして、現在、北海道を拠点に活動しているアイドル歌手中山怜香さんは、六代目の孫にあたります。

あとがき

1961年(昭和36年)、北海道産米の収穫量(85万4500ト)は、新潟県を抜いて全国一位となり、1967年(昭和42年)には、大豊作で道産米収穫量100万トを突破したといわれます。しかしその後、政府の減反政策(生産調整)の強化・政府買入価格の銘柄格差導入などにより、最低ランク道産米の低迷が続きます。

1980年(昭和55年)からの、道のプロジェクト「優良米の早期開発試験」に始まる、各地農業試験場のたゆまぬ品種改良の努力により、美味しい「ゆきひかり」(‘84・昭59)、「きらら397」(‘88・昭63)が誕生し、「きらら」は、全国的に脚光を浴び、ブームとなります。その後、「ほしのゆめ」「ななつぼし」「ふっくりんこ」「おぼろづき」「ゆめぴりか」など、次々と全国ブランドの美味しいお米が誕生しています。

大陸から日本に伝播した稲作は弥生時代中期までには本州最北端まで達していたといわれますが、津軽海峡を渡るまでには非常に長い年月がかかっています。道内で始めて稲作が試みられたのは、江戸時代初期で、道南の一部(現在の北斗市)に限られていたようです。しばらく試行錯誤が続きますが、収穫は安定しませんでした。明治初期、開拓使が米国から招いたホールズ・ケブロンは札幌以北での稲作は不可能と断定、畑作を勧めます。開拓使もいったんは稲作を断念したのでした。

しかし、本州からの開拓移民たちの稲作への熱意には強いものがありました。1873年(明治6年)、島松(現在の北広島市)に入植した中山久蔵が、耐寒性の強い「赤毛」という品種を使って、風呂の温水を苗代に注ぐなどの工夫と苦勞を重ねて、道央で初めてその収穫に成功し、そして、道内各地へ

の稲作の普及に情熱を注ぎました。これが、今日の北海道稲作の原点となりました。「中山久蔵」をここに特筆する所以です。

【資料】 北海道水田発祥の地碑は、北海道各地に、その土地の稲作発祥を記念するものとして建てられていますが、ここには本稿に關係の深いもののみを、以下にご紹介しておきます。

(1)「北海道水田発祥乃地」碑（現在の北斗市大野町文月）



(碑文) 水田発祥由来

亀田郡大野村字文月押上のこの地に元禄五年農民作右衛門なる者南部の野田村から移って人々の定着は米にあるとして地を拓し自然水により四百五十坪を開田し産米十俵を収穫した爾来消長あったが後「御上田」と称して現在に及んでいる先人未踏の北辺に今日道産米三百万石の基礎はこうして発祥したものである
渡島支庁長 岡 武夫書
昭和二十四年八月建之

(説明版) 北海道水田発祥の地碑

蝦夷地の米作りには、寛文年間(1661~72)、貞享二年(1685)、元禄五年(1692)の記録がある。水田発祥の地碑は、元禄五年の「松島志」の記録と村民の伝承によって昭和二十四年(1949)に建てられた。

碑文には「押上(文月村)のこの地に元禄五年農民作右衛門なる者南部の野田村から移って、人々の定着は米にあるとしてこの地を拓し、四百五十坪(約15アール)を開田し、道米十俵(現在の二俵程度)を収穫した」と記されている。現在の道産米の基礎はこうして発祥した。

作右衛門の水田は二、三年で廃止され、その後も稲作は失敗と成功を繰り返し、文化二年(1805)には箱館奉行所が大規模な水田開発を行ったが、長くは続かなかった。

嘉永三年(1850)、大野村の高田松五郎・万次郎親子が苦心の末、米の収穫に成功すると、近隣の村々にも広がり、安政元年(1854)以降、米作りはようやく安定した。明治六年(1873)になって、島松(現北広島市)の中山久蔵がこの地の品種「赤毛」で寒地稲作に成功し、米造りは全道各地に広がったのである。
平成十八年三月吉日
北斗市教育委員会

(2)「寒地稲作記念碑」(左)とクラーク博士記念碑」(右)(北広島市 旧島松駅遺所)



(碑オモテ) 寒地稲作
この地に
始まる
北海道知事 町村金五 (揮毫)

(碑ウラ) 碑文

ここは 明治六年 大阪府出身の中山久蔵が最初に米作を試みたところとして 永く記憶
さるべき地である

当時道南地方を除いては 北海道の米作は危険視され 万全の開拓方針をたてることがで
きななかったが 明治四年 単身率先してこの地に入り開墾に従事した久蔵は あえてま
ずここに水田一反歩を開き 種子を亀田郡大野村から求めてこれを試み成功し その安全
さを証明したばかりではなく その種子を道内各地の希望者に無償配布して成功せしめた
ために付近の水田耕作熱は とみに高まり 空知 上川の穀倉を拓く基を開き ついに北
海道を全国一の米産地に育てる因を作ったのである。

昭和三十九年九月

北海道大学教授農学博士 高倉新一郎 撰文

鈴木 凌雲 書

建立者 中山久蔵翁記念碑設立協賛会

広島村

<主な参考文献及び参考資料>

「北海道の歴史」 榎本守恵著 北海道新聞社 「星霜」2 北海道史 明治2(1875~1885) 北海道
新聞社編 「北海道の歴史」 田端宏・桑原真人・船津功・関口明共著 山川出版社 「北国に光を掲げ
た人々(19) 北海道の寒地稲作に挑んだ人・北広島市島松の中山久蔵」堀内興一著 (財)北海道科学文化協
会 「北海道の夜明け 開拓につくした人びと」第二巻 北海道総務部文書課編集 理論社刊 「日
本の農業につくした人々」さえら伝記ライブラリー29 筑波常治著 さえら書房 「開拓使時代」さっ
ぼろ文庫 札幌市教育委員会編 「広島町の歩み」現北広島市資料 「北海道水田発祥の地記念碑」
佐々木 多喜雄 著 北海道出版企画センター インターネット資料、他

平成22年度 第3回 国際交流ランチセミナー記録

～バレンタインデー・異文化交流の昼食交流会～

日時 平成23年2月11日(金) 11時00分～14時00分
 会場 KKRホテル札幌 2階 レストラン「マイヨール」
 (札幌市中央区北4条西5丁目)

<ゲスト> 17名

Stephen Hasbrouck	スティーブン ハズブルック	HOMAS 英語講師	(アメリカ)	M
Nguyen Thi Luyen	グイエン ティ ルイエン	札幌大学留学生	(ベトナム)	F
王 晟川	ワン ションチュワン	札幌大学留学生	(中国)	M
瞿 展	チュイ チャン	小樽商科大学留学生	(中国)	F
陳 卓璇	チェン チュオシュエン	小樽商科大学留学生	(中国)	F
張 百慧	チャン パイホイ	小樽商科大学留学生	(中国)	F
王 琳	ワン リン	小樽商科大学留学生	(中国)	F
GIUGIALE Yann	ジュジアレ ヤン	小樽商科大学留学生	(フランス)	M
GRIMAUD Emilie	グリモ エミリ	小樽商科大学留学生	(フランス)	F
BALAN Daria	バラン ダリア	小樽商科大学留学生	(ロシア)	F
金 孝善	キム ヒョソン	北海学園大学留学生	(韓国)	F
李 涵明	リ ハンミン	北海学園大学留学生	(中国)	F
Philip Calandra	フィリップ カランドラ	北海学園大学留学生	(アメリカ)	M
Alicia Bechtle	アリッサ ベクトル	恵みキリスト教会	(アメリカ)	F
Raula Noguchi	ローラ ノグチ	恵みキリスト教会	(アメリカ)	F
Chris Juday	クリス ジュデイ	恵みキリスト教会	(アメリカ)	M
Morgan Barrie	モーガン バリー	英語講師	(ニュージーランド)	M

概要: この国際交流ランチセミナーは、2001年(平成13年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。今回は、17名の多国籍の外国人ゲストをお迎えしました。「バレンタインデー」のテーマで、各国の伝統行事や文化の違いなどを語り合う豪華な国際交流の時間となりました。今回は、特に学生(高・大)16名の参加があり、他にも多数お断りするよな状況でした。参加者合計60名。今回は29回目。(通訳は、牧野ひろみさんでした。)今回は、大勢のゲストですので、各ゲストのスピーチの要約を、ほんとに短くご紹介します。

1 スティーブン ハズブルック さん (米国・男性)

今日は皆様とお会いできてとてもうれしく思っています。昨年ですが、Mr.新藤が、北海道・マサチューセッツ協会の Mr.中垣を紹介して下さいました。今日は、お招きありがとうございます。今日のゲストは、いろいろな国の女性や男性の皆さんですが、皆さん若くてすてきな方々ですね。

私は、母国アメリカの伝統的な祝日についてお話ししたいと思います。それは「感謝祭」です。私たちの祖先は、1620年12月に、ヨーロッパからアメリカに渡り、厳しい生活を送りました。翌年の秋、初めての収穫を喜び「感謝祭」をしました。アメリカの1番古い伝統行事ですね。私はカナダに16年間住んでいますが、カナダの感謝祭はアメリカより一月早いのですが、とても寒いのです。カナダ人にとっての感謝祭は

バックグラウンドの違いからアメリカの感謝祭とは違うようです。

アメリカ人にとって「感謝祭」はとても重要なものです。感謝祭の時期、一年で最も多くの人びとが家族と一緒に感謝祭を祝うために飛行機や車で「実家」に帰ります。それはちょうど日本の「お盆」や「お正月」と似ています。私の話は簡単にしておきます。今日は、皆さんとランチを楽しむことができてうれしいです。皆さんは英語の勉強頑張って続けて下さいね。私も英語を話し続けますよ。(笑)

2 キム ヒョンソン さん(韓国・女性)

(日本語で)みなさん、こんにちは！ 韓国テグ市の大田大学出身のキム ヒョンソンです。現在、北海学園大学の研究生として勉強しています。

今日は、このようなパーティーに参加している色々な国の方と出会えてうれしいです。韓国でもバレンタインデーには恋人同士で手作りのチョコレートを交換したり、素敵な場所でパーティーをしたりします。でも、私はここ数年恋人がいなくて一人で過ごしていましたが、今年はこのように皆さんと過ごすことができてうれしいです。(笑) 皆さん、最後まで楽しみましょう！

3 ローラ ノグチ さん(米国・女性)

私はローラ ノグチです。アメリカのインディアナ州出身で、今は札幌に住んでいます。中島公園の近くにある「恵みキリスト教会」で英語を教えています。今日出席のアリシアとは、姉妹ではありませんが、姉妹のように仲良しです。どうぞよろしくお願いいたします。

4 アリッサ ベクトル さん(米国・女性)

私はアリッサ ベクトルです。私も、ローラと同じ、アメリカインディアナ州の出身です。「恵みキリスト教会」で英語を教えています。また、教会のミュージックチームのメンバーです。今日は楽しいパーティーに参加できてうれしいです。どうもありがとうございます。

5 クリス ジュデイ さん(米国・男性)

私はクリス ジュデイです。26歳です。私も、この2人と同じ「恵みキリスト教会」からきました。私の仕事は音楽を教えることで、ミュージックグループに、ピアノ・ギター・声楽を教えています。

私は、生まれはアメリカ インディアナ州インディアナポリス出身ですが、テネシー州のナッシュビルから日本に来ました。どうぞよろしくお願いいたします。

6 グイエン ティ ルイエン さん (ベトナム・女性)

(日本語で)みなさん、こんにちは！ ベトナムから参りましたグイエン ティ ルイエンと申します。現在は、札幌大学の大学院で勉強しています。今日は、このパーティーに招待していただきありがとうございます。皆さんと色々なお話ができて、とてもうれしいです。

今日(の話題)はバレンタインデーですので、ベトナムのバレンタインデーについてお話ししたいと思います。日本では女性が男性にチョコを贈り、一ヶ月後に男性が女性にお返しをしますが、ベトナムでは女性が恋人からチョコレートをもらいます。「義理チョコ」はありません。ベトナムでは男性が好きな女性にチョコレートを贈り、受け取ってもらえない時は、その女性が「あなたのことを好きではありません」ということです。もし受け取ったら、「好きです」ということです。

ベトナムではホワイトデーのようなお返しはありません。女性はもらうだけでいいので、とても得をします。どうか男性のみなさん、ぜひベトナムにいらして下さい。(笑)今日は本当にありがとうございました。

7 ワン リン さん (中国・女性)

みなさん、こんにちは！ ワン リンと申します。中国甘肅省から来ました。私は、小樽商科大学で勉強しています。今日は、皆さんにお会いできてうれしいです。

中国のバレンタインデーについてですが、紹介すると、とても長くなります…(笑)

8 チャン パイホイ さん (中国・女性)

みなさん、こんにちは！ 私たち 4 人は、5カ月前に中国大連市東北財経大学から参りました。日本語はまだ話せませんが、お許し下さい。今日ここに参加できてとてもうれしいです。私たちは日本での生活を楽しんでいます。私たちの中の何人かは小樽商科大学大学院に進むつもりですので、こちらでの生活をもう少し続けることとなります。どうぞよろしく願いいたします。

9 チュイ チャン さん (中国・女性)

中国でのバレンタインデーですが、女の子はチョコ レートをあげないのですが…(言葉につまんで)…ごめんなさい！ ちょっとよくわかりません。…

<ここで ワン リン さん 再登場>(助け舟を出して)中国には、夏のバレンタインデーといわれる伝統的行事があります。それは、7月7日の「七夕節」(恋人節)です。でも、最近は2月14日もお祝いしますね、主に若い人のイベントです。どちらも美味しいものを食べて、ロマンチックな時間を過ごします。

(参考資料) 中国の「七夕節」の伝説

玉皇大帝(ユファンダディ)(天帝)の娘・織女(ジニユイ)(毎日空の色とりどりの雲を織るそうなので、「織女」と呼ばれました)が、人間界に降り、勤勉な青年・牛郎(ニウラン)と恋に落ちました。しかし、王母娘娘(ワンムニャンニャン)(天帝の妻)に知られて、天の世界へ無理矢理に連れ帰られてしまいました。

牛郎は自分が飼っていた牛が死んだ時に「私の皮で空を飛ぶことができる」と言ったことを思い出して、すぐ牛皮を覆って二人の子供を連れて織女を追いかけていきました。しかし、もうすぐで追いつくという時に、王母が髪に挿した銀の簪(かんざし)を取って二人の間を引っかくと、たちまちに川がでてきました。

これが後に「銀河」(天の川)と呼ばれるものです。川を隔てている牛郎と子供を眺めながら、織女が毎日泣いていました。それを見た王母は心を痛み、毎年一回7月7日にカササギに橋を作ってもらって二人が会うことを許しました。毎年、この日になると、銀河の上に薄い雲があるように見えることから中国人の間ではそれが「カササギの群れで作った橋」であり、またその日に降る雨は二人の涙であると信じられています。また、銀河の両側にある大きな星をそれぞれ「牛郎星」と「織女星」と呼びました。

人々は彼らの恋物語に感動し、その日を「七夕」というお祭りにしました。その日に、未婚の女性が竹林の傍で耳を澄ませば、あの二人の囁きまでも聞こえるということです。若いカップルが、自分たちの恋もあの伝説の主人公のようにどんな困難があっても一緒にいるように頑張ることを願い、いろいろな記念行事を行いました。これが中国版の伝統的な「バレンタインデー」の由来です。

10 チェン チュオシュエン (中国・女性)

みなさん、こんにちは！ 今日参加できてうれしいです。私は中国東北部の大連市から来ました チェンチュオシュエンと申します。小樽商科大学で勉強しています。ワンさんが中国のバレンタインデーに

ついてすでに話してくれましたので、私からは付け足すことはありません。

<再び チュイ チャン さん(中国・女性)> 私は(日本語読みで)ク テンと申します。中国語の発音(チュイ チャン)は皆さんには難しいと思います。私たち4人は中国の同じ大学から来ました。私は上海の近くの中国南部出身で、あまり雪が降りません。北海道は本当に雪が多いですね。とてもきれいだと思いますが、昨日、小樽は大雪で 30 センチも積りました。今朝外へ出た時転んでしまいました。でも、北海道は本当に美しいところだと思います。大好きです。ありがとうございました。

11 モーガン バリー さん (ニュージーランド・男性)

こんにちは！私は、ニュージーランドから来ました。札幌では、ミュージシャンとして、また英語講師として働いています。日本が大好きです。ニュージーランドでは、バレンタインデーには2つの面があります。まず一つは、商売としてのバレンタインデーです。チョコレートやカードやそれを販売するお店にとつてのイベントだということです。もう一つのバレンタインデーは人びとのためです。銀行のためではありません。具体的に言うと、バレンタインデーに自分の好きな人、学校の友達、職場の同僚などに宛ててちいさな紙に心のこもったメッセージを書き、それをこっそりとその人たちのポケットに入れたり、机の上にそっと置いて来たりします。もらった人はそれを見つけた時、心がワクワクします。みなさんもぜひやってみてくださいね。今日は、どうもありがとうございます。

12 エミリ グリモー さん (フランス・女性)

私は、フランスから参りましたエミリです。21 歳です。小樽商科大学の留学生です。趣味は外国語を勉強することです。私の母国語はドイツ語ですが、英語を勉強し、日本語も 2 年前から勉強しています。旅行も好きです。ヨーロッパ各地、例えばドイツ・イギリス・スペインなどを旅行しました。去年は仕事で、カナダのバンクーバーへ行きました。昨年8月に小樽に来ましたが、ここでの生活が気に入っています。今日は、とても楽しいです。

フランスの「バレンタインデー」は、日本とは違います。男女がお互いにプレゼントを交換しますが、チョコレートだけでなく、お花や時計など何でも OK です。ロマティックなレストランへ行き食事をしたり、映画を見に行ったりします。これがフランスのバレンタインデーです。

13 ヤン ジュジアレ さん (フランス・男性)

私はフランスから来ましたヤンと申します。22 歳です。エミリは私のガールフレンドです。私は、南フランスのマルセーユの大学から来ました。小樽商科大学の留学生です。エミリが、フランスのバレンタインデーについて話したので、私は、「ここで皆さんとお会いできてうれしいです」という挨拶で結びたいと思います。今日は、ほんとうにありがとうございました。

14 ワン ションチュワン さん (中国・男性)

(日本語で)皆さん、こんにちは！私は、札幌大学の留学生で(オウ セイセン)~ワン ションチュワンと申します。今日は、HOMASのバレンタイン パーティーに参加出来てうれしいです。先程、小樽商科大学の中国人留学生がすでに中国のバレンタインデーについて話してくれたので、私はもう話すことがないかと思います。(笑) どうぞよろしく願いいたします。

15 ダリア バラン さん (ロシア・女性)

皆さん、こんにちは！ 私はロシアのウラジオストックから参りましたダリアと申します。日本に来て 5 カ

月になります。小樽商科大学で、今日ここに出席している留学生と一緒に勉強しています。私は、日本文化に関心があり、日本の食べ物や温泉などが好きです。

ロシアのバレンタインデーは、日本の習慣と似ていますが、チョコレートは送られません。その代わりに、小さなカードを送ります。私のロシアの大学では、バレンタインデーカード用のメールボックスが置かれ、みんながカードを投函します。私もボーイフレンドだけではなく、いろいろな友達にカードを送ります。そういったカードを受け取るのはとても素敵なことです。いっぺんに沢山のカードを受け取り、ワクワクしたことを覚えています。ありがとうございます。

16 リ ハンミン さん (中国・女性)

(日本語で) 皆さん、こんにちは！ 中国黒龍江省のハルビンから来ました、リ ハンミンと申します。北海道に来てもう3年半になります。北海学園大学の研究生です。よろしくお願いします。先程からたくさんの中国人留学生が、中国について紹介してきましたので、皆さんは少し飽きてしまったのではないのでしょうか？(笑) ですから、私はバレンタインデーについては紹介しませんが、皆さん、どうかステキなバレンタインデーを過ごして下さい。今日は、ありがとうございます。

17 フィリップ カランドラ さん(アメリカ・男性)

こんにちは！ アメリカのニューヨークから1年前に来ましたフィリップと申します。アメリカのバレンタインデーについてですが、アメリカでは、男性はプレゼントをあまりもらえないので、バレンタインデーはそんなに楽しいことではないかもしれませんが、女性にとっては楽しいイベントだと思います。私は、現在、北海学園大学日本語学科の研究生です。最近、仕事を探し始めたところなので、とても忙しいです。今日は、ほんとうにありがとうございました。



第7代七飯町国際交流員 ベンジャミン・ミリンさんが着任

第6代目の国際交流員として活躍された、ボビー・カーグラさんは、2008年(平成20年)10月23日に着任し、2010年(平成22年)9月8日まで、約2年間の任期を終えて帰国されました。

この度、第7代目の七飯町国際交流員として姉妹都市の米国マサチューセッツ州コンコード町から、ベンジャミン・ホーランド・ミリンさん(23歳)(通称、ベンさん)が、2010年(平成22年)12月1日に着任しました。

ベンさんは、2010年年6月にミネソタ州カールトン大学を卒業後、コンコード町で自然観察員の仕事をしていました。野鳥観察は幼少期の頃から興味をもっており、欧州やアフリカにも出かけるなど意欲的に活動しています。これから、七飯町でも「大沼の野鳥を観察するのを楽しみにしている」と話しています。

七飯町の印象については、「自然の山に囲まれ、景色がとてもきれいです。」、「これまでにあった七飯の人達はとても親切で、気持ちよく歓迎してくれました」などと話していました。

また、日本文化についても大変興味をもっており、いろいろなことに積極的にチャレンジしたいと楽しみにしている様子です。日本語についても、まだ習い始めたばかりですが、スケジュールの許す限り一生懸命勉強して早く話せるようになりたいと話しています。

ベンさんの任期は1年です。国際交流員として英会話講座の講師を務めたり、国際交流活動に参加して通訳などを行うほか、高校、小学校、保育所などに出向いての交流も予定されています。

今後、七飯町とコンコード町が、お互いに、より近いより深い関係になるよう頑張りたいと意欲をみせています。これからのベンさんの活躍を期待したいと思います。



着任の喜びと抱負を語るベンジャミン・ホーランド・ミリンさん

北海道・マサチューセッツ協会 事業計画 (案)

2011年4月～2012年3月

会議 4月27日(水) 平成23年度 理事会(14:00)・総会(15:10) <予定>

*ミニコンサート&ミニギャラリー

(会場:KKRホテル札幌3階「エルム」)

国際交流セミナー

6月25日(土) 第1回 HOMAS 国際交流ランチセミナー

<異文化理解のふれあい> <会場:北大構内レストラン「エルム」>

10月29日(土) 第2回 HOMAS 国際交流ランチセミナー

<ハロウィーンパーティー><会場:すみれホテルレストラン「ルピナス」>

2月11日(土) 第3回 HOMAS 国際交流ランチセミナー

<バレンタインパーティー><会場:KKRホテルレストラン「マイヨール」>

北海道を知る歴史発見の旅シリーズ 道内小旅行(新企画)

6月4日(土)～5日(日) 第1回 函館・七飯歴史探訪バスツアー(1泊2日コース)

9月4日(日) 第2回 小樽地区 歴史探訪バスツアー(日帰りコース)

姉妹提携20周年記念の継続事業

2011「HOMAS 英語でガイドしよう実践講座」 <7月～11月> (5回コース)

高等学校Eメール国際交流プログラムの推進

2011年 国際交流事業(受け入れ)

ファイブカレッジセンター北海道教育視察団(12名) 6月下旬 (日程詳細連絡中)

事務局短信

平成23年度 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ 新企画スタートします!

「北海道を知る歴史発見の旅シリーズ」は、平成14年度(2002年)から9年間、35回実施してきました。これまで約700名の方々が参加されました。札幌圏の歴史解説コースとして、北海道神宮・円山公園・円山八十八ヵ所登山(8回)、三角山・大倉山登山(7回)、藻岩山三十三ヵ所霊場登山・水道記念館・伏見稻荷地区(6回)、知事公館・赤れんが・偕楽園・清華亭・北大(4回)、大友亀太郎・時計台・大通公園・資料館(3回)、カフの通り・開拓使麦酒醸造所・サッポロビール博物館(2回)、琴似屯田兵屋・五天山登山(1回)、手稲鉾山・石屋製菓(1回)、真駒内モーターセー農場跡・ドクウダノ記念館(1回)、旧簾舞通行屋・サッポロリカカ・美泉定山(1回)、百年記念塔・開拓記念館・開拓の村(1回)などを実施しました。

今後は、北海道近代化の歴史探訪バスツアーを企画したいと考えています。平成23年度は、北海道近代史の重要な地として、函館・七飯歴史探訪コース(6月4日～5日・1泊2日)、小樽地区歴史探訪コース(日帰り・9月4日)を考えています。詳細は別紙要項をご覧ください。ぜひ皆様の、歴史探訪小旅行(貸切小型バス)へのご参加をお待ちしています。

2011年 HOMAS 国際交流ランチセミナーの今後・・・

「国際交流ランチセミナー」は、新しいスタイルで2001年(平成13年)にスタートしました。第1回は、6月28日、コンコードのカーチン先生ご夫妻、デンティノー先生をゲストにお迎えして実施しました。以後、多国籍のゲストを多数お招きし、国際交流や異文化理解の楽しい昼食会として、年3回継続実施(2009年は2回)してきました。今年2011年2月は、多国籍ゲスト17名を迎えて、29回目になりました。今回は、特に学生(高・大)16名の参加があり、他にも高校生の申込者多数をお断りするような状況でした。今後とも、高校・大学の学生に大勢参加していただき、これからの国際交流の主役になってほしいと考えています。新年度も、継続的に実施の予定です。

英語ガイド講座のプログラムについて

姉妹提携20周年を記念してスタートしたこのプログラムは、2009年「高校生のための通訳ガイド講座」(10回)、2010年「英語でガイドしよう講座」(10回)として実施してきました。

2011年は、これまでの基礎講座をベースにして、「英語ガイド実践講座」(5回)として企画中です。

2011年 北海道・マサチューセッツ協会 理事会・総会・・・ミニコンサート・ミニギャラリー

2011年 北海道・マサチューセッツ協会理事会・総会は、4月27日(水)午後 KKR ホテル札幌3階「エルム」で開催予定です。また久しぶりに、チェンバロ演奏者明楽みゆきさんのミニコンサートとダンボールアートの桑折広幸のミニギャラリーも予定しています。皆様のご出席をお待ちしています。

新入会員紹介 (2010年12月10日以降) : 敬称略

<個人会員> 森 清恵 小山 真由美 大瀧 比呂子 桑折 広幸 千葉 裕子

新企画

2011 英語でガイドしよう実践講座 ご案内 (原案)

第1期「高校生のための通訳ガイド養成講座」、第2期「英語でガイドしよう講座」の基礎コースを踏まえて、今年度は、これからの国際交流の場面で即戦力となる英語ガイドの実践練習を小グループで実施します。基礎講座よりは少しハイレベルの5回コースとします。この講座は、国際交流の知識と札幌の文化・歴史を踏まえた外国人の案内や交流のための実践英会話の習得を目標として、毎月1回継続的に実施していきます。

講座の概要 国際交流に関する学習と英語ガイドの実践トレーニング

主催 北海道・マサチューセッツ協会 (道庁別館 12階)

期日 毎月1回 (~2回) 土曜日 10:00 ~ 12:00

会場 札幌市社会福祉総合センター (大通西19丁目)

内容 英語ガイドの実践トレーニングプログラム
<外国人講師と日本人英語講師スタッフ、他>

参加費 4,000円 (申込時納入)

人数 20名 (~25名程度まで)

日程 第1回 7月9日(土) 第4回 10月8日(土)

第2回 8月13日(土) 第5回 11月12日(土)

第3回 9月17日(土)

申込 北海道・マサチューセッツ協会 (FAX 011-231-3666) あて